

新潟県 まるわかり資料

地理・歴史・産業・観光・食文化・くらしを一冊に

AI実習ナビ 学習用サンプル資料（全10ページ）

出典：一般に公開されている情報にもとづく教材用まとめ

※本資料は「AIに読み取らせて要約・質問する」練習用に、あえて情報を詰め込んで作成しています。
ぜんぶを読むのは大変です。AIに「要点だけ」「表で」「○字で」などと形式を指定して整理してもらいましょう。

1. 新潟県の概要

新潟県は、本州のほぼ中央、日本海に面した中部地方（北陸・甲信越）に位置する県である。県庁所在地の新潟市は、本州の日本海側で唯一の政令指定都市であり、信濃川の河口に開けた港町として古くから栄えてきた。県の面積は約12,584平方キロメートルで全国第5位、南北におよそ240キロメートルと細長く伸び、海岸線の総延長は約635キロメートルに達する。人口は約212万人であるが、全国の多くの地方と同じく、近年は人口減少と高齢化が進んでいる。

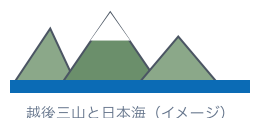
県内は、北から順に下越（かえつ）・中越（ちゅうえつ）・上越（じょうえつ）、そして日本海に浮かぶ佐渡（さど）の、大きく四つの地域に分けられる。同じ「新潟県」といっても、これらの地域は気候や産業、方言、食文化にそれぞれ個性があり、下越では県都・新潟市を中心とした都市機能と稲作、中越では長岡・燕・三条を中心としたものづくりと豪雪、上越では戦国武将・上杉謙信ゆかりの歴史とスキー、佐渡では金銀山や伝統芸能といったように、一県のなかに多彩な顔がそろっている。県の花はチューリップ、県の木はユキツバキ、県の鳥は国際保護鳥のトキであり、いずれも新潟の自然や産業と深く結びついている。

基礎データ 正式名＝新潟県／県庁＝新潟市（政令指定都市）／面積＝約12,584km²（全国5位）／人口＝約212万人／市町村数＝20市6町3村（計30）／隣接県＝山形・福島・群馬・長野・富山の5県／県の花＝チューリップ・県の木＝ユキツバキ・県の鳥＝トキ

新潟県の魅力を一言でいえば、「米・酒・雪・海・歴史がそろった、日本海側を代表する豊かな県」ということになるだろう。以下では、地理・歴史・産業・観光・食文化・くらしの順に、その姿をやや詳しく見ていく。情報量が多いので、関心のある分野から読み進めても構わない。

2. 地理と自然

新潟県の地形を特徴づけるのは、県の中央部に広がる**越後平野（新潟平野）**である。信濃川と阿賀野川という二つの大河が運んだ土砂によって形づくられたこの平野は、日本有数の穀倉地帯となっている。もっとも、かつては水はけの悪い低湿地が広がり、田舟で行き来しなければならないような土地も多かつ



た。長い年月をかけた排水・干拓・分水などの事業によって、現在の見わたすかぎりの美田がつくり出されたのである。

県の東側から南側にかけての県境には、山地が連なる。**越後三山**と呼ばれる八海山・中ノ岳・越後駒ヶ岳をはじめ、妙高山、火打山、苗場山などの名峰がそびえ、豊かな雪解け水を平野に供給している。これらの山々は、米づくりや酒づくりに欠かせない清らかな水の源であると同時に、スキーや登山といった観光の舞台でもある。

河川と湖沼

信濃川は延長367キロメートルにおよぶ日本最長の川で、長野県から流れ込み、越後平野をうるおして日本海へ注ぐ。大正時代に完成した**大河津分水**は、たびたび洪水に見舞われてきた越後平野を水害から守り、安定した穀倉地帯へと変えた大事業として知られる。もう一つの大河**阿賀野川**は水量が豊かで、水力発電や化学工業の発展を支えてきた。白鳥の飛来地として名高い**瓢湖（ひょうこ）**はラムサール条約に登録された湿地で、冬には数千羽の白鳥が羽を休める姿が見られる。

気候と雪

新潟県の気候は、典型的な**日本海側気候**である。冬になると、大陸から吹き出す冷たい北西の季節風が、対馬海流の上を渡るあいだに大量の水分を含み、山地にぶつかって雪を降らせる。とりわけ十日町・津南・湯沢といった山沿いの地域は**世界でも有数の豪雪地帯**で、積雪が数メートルに達することも珍しくない。雪は暮らしに大きな負担をもたらす一方で、豊かな水資源となり、スキー観光や、雪の冷気で農産物を貯蔵する「雪室（ゆきむろ）」、越後上布などの織物といった、雪国ならではの文化と産業を育ててきた。春から夏にかけては、山を越えた乾いた風によるフェーン現象で気温が急に上がることもある。

佐渡島（さどがしま） 日本海側で最大の島（面積約855km²）。江戸時代の金銀山、国際保護鳥トキの保護と野生復帰、名物のたらい舟、数多く残る能舞台など、独自の歴史と文化をもつ。両津港と本土を佐渡汽船が結び、2024年には「佐渡島（さど）の金山」が世界文化遺産に登録された。県内にはこのほか、粟島（あわしま）などの離島もある。

地域	主な市町村	特色
下越	新潟・新発田・村上・阿賀野	県都・稲作・鮭・温泉
中越	長岡・三条・燕・小千谷・十日町・魚沼・湯沢	金属加工・花火・織物・豪雪・米
上越	上越・糸魚川・妙高	上杉謙信・スキー・ヒスイ
佐渡	佐渡市	金銀山・トキ・伝統芸能

3. 歴史のあゆみ

現在の新潟県にあたる地域は、古代の律令制のもとでは**越後国（えちごのくに）**と**佐渡国（さどのくに）**に分かれていた。「越（こし）の国」の一部として、日本海を通じた交易の要衝であり、都から見れば北方の重要な地であった。中世には各地に荘園や国人領主が割拠したが、戦国時代に頭角を現し、越後を代表する存在となったのが**上杉謙信**である。

上杉謙信と戦国の越後

 「越後の龍」「軍神」とたたえられた上杉謙信は、本拠の**春日山城**（上越市）を拠点として、関東や信濃へたびたび出兵した。宿敵・武田信玄との**川中島の戦い**は、日本の戦国史でもよく知られる激戦である。謙信は「義」を重んじた武将として伝えられ、敵将である武田氏が塩に困ったときにこれを送ったという逸話から、「敵に塩を送る」という言葉が生まれたとされる。その家臣**直江兼続（なおえかねつぐ）**は、「愛」の一字を掲げた兜で知られ、後世の人気も高い。

江戸時代 — 天領と諸藩、北前船

江戸時代の越後は、一つの大きな藩にまとまることはなく、**長岡藩・新発田藩・村上藩・高田藩・与板藩**など、多くの藩に分かれていた。一方、金銀を産出する佐渡は幕府が直接治める**天領**となり、**佐渡金山**は幕府の重要な財源として栄えた。日本海を行き来する**北前船（きたまえぶね）**の交易も、この地域を大いに潤した。新潟・出雲崎・寺泊などの港には、米や酒、塩、海産物が集まり、上方や蝦夷地（北海道）とを結ぶ物流の拠点としてにぎわった。出雲崎は、のちの石油の町であり、歌人であり禅僧でもあった**良寛**ゆかりの地としても知られる。

幕末から近代へ

幕末の戊辰戦争では、越後の地が**北越戊辰戦争**の激戦地となった。長岡藩の家老**河井継之助（かわいつぎのすけ）**は、ガトリング砲などの洋式軍備をそろえて新政府軍と戦ったが、力およばず、長岡のまちは焦土と化した。戦後の窮乏のなか、支援として贈られた米百俵

を、目先の飢えをしのぐために分けるのではなく、売却して学校を興す資金にあてたという「米百俵」の逸話は、教育を重んじる精神の象徴として、今も語り継がれている。

開港五港のひとつ 新潟港 1858年の修好通商条約によって開かれた開港五港（函館・横浜・長崎・神戸・新潟）の一つが新潟である。日本海側の玄関口として、新潟は近代化の一翼をになった。明治期には新津・尼瀬などで石油産業も興り、日本の石油産出の中心地の一つとなった。

近代以降の新潟県は、多くの人材を世に送り出してきた。「日本列島改造論」を掲げ、上越新幹線や関越自動車道などの整備を進めた総理大臣**田中角栄**、連合艦隊司令長官として知られる**山本五十六**（長岡出身）、歌人・美術史家の**會津八一**など、その顔ぶれは多彩である。二十世紀の後半には、新潟地震（1964年）や中越地震（2004年）などの大きな災害も経験し、そのたびに人々は力を合わせて復興を成し遂げてきた。

年	おもなできごと	年	おもなできごと
1561	川中島の戦い（第4次）	1922	大河津分水 通水
1601頃	佐渡金山の本格開発	1964	新潟地震（M7.5）
1858	新潟が開港五港に	1982	上越新幹線 開業
1868	北越戊辰戦争	2024	佐渡金山 世界遺産登録

4. 産業 — 米・酒・ものづくり

新潟県の産業を語るとき、まず挙げられるのが**米づくり**である。作付面積・収穫量ともに全国のトップクラスにあり、名実ともに日本を代表する米どころとして知られる。とりわけ、ブランド米**コシヒカリ**の一大産地であり、なかでも山あいの**魚沼産コシヒカリ**は、高級米の代名詞として全国にその名をとどろかせている。豊富な雪解け水と、昼夜の寒暖差の大きい気候が、粘りと甘みのある良質な米を育てる。

米づくりの伝統は、それ自体にとどまらず、多くの関連産業を育ててきた。その代表が**日本酒**である。新潟県内の酒蔵の数は約90と全国でも最多クラスで、良質な米、雪解けの**やわらかな水**、そして寒冷的な気候という、酒づくりに適した条件がそろっている。すっきりとして飲み口のよい「**淡麗辛口**」は、新潟清酒の代名詞となっており、久保田・八海山・**〆張鶴**・越乃寒梅といった銘柄は全国に知られている。



米を原料とするもう一つの大きな産業が**米菓（べいか）**、すなわちせんべいやあられの製造である。新潟県は米菓の生産で全国のおよそ6割ものシェアを占め、**亀田製菓**・**三幸製**

菓・栗山米菓・ブルボンといった有力メーカーが集まっている。おつまみの定番「柿の種」は、長岡の浪花屋製菓が発祥とされる。

燕三条のものづくり

米や酒とならんで、新潟県のものづくりを象徴するのが**燕三条（つばめさんじょう）**である。**燕市**は金属洋食器や金属ハウスウェアの世界的な産地として知られ、スプーンやフォーク、鍋ややかんといった製品を数多く生み出してきた。となりの**三条市**は、刃物や大工道具、作業工具などの利器工匠具の町である。両市を合わせた「燕三条」は、中小の工場が高い技術を持ち寄って支え合う「ものづくりのまち」として、国内外から注目されている。近年は、職人の技術を生かした高付加価値の製品づくりや、工場見学・産業観光にも力を入れている。

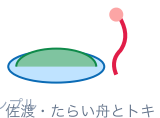
このほかにも、阿賀野川の流域を中心とした化学工業、電子・機械工業、小千谷縮（おぢやちぢみ）や十日町・塩沢などの**織物・きもの産業**、そして日本海の幸を生かした**漁業**など、多彩な産業が県の経済を支えている。漁業では、甘えびの一種である**南蛮えび**、冬の**寒ブリ**や**ノドグロ**、村上の**鮭**、佐渡の**牡蠣**などが名高い。米・酒・ものづくり・観光が幾重にも重なり合う多層的な産業構造こそが、新潟県経済の特徴といえる。

分野	全国での位置づけ（目安）
米（収穫量）	全国トップクラス
清酒（酒蔵数）	全国最多クラス
米菓（生産）	全国シェア 約6割
金属洋食器	国内最大の産地（燕）
チューリップ切り花・球根	全国有数

5. 観光の見どころ

新潟県の観光は、自然・歴史・雪という三つの魅力を軸に広がっている。まず外せないのが**佐渡島**である。世界遺産に登録された佐渡金山では、江戸時代の坑道や採掘の跡をたどることができ、国際保護鳥**トキ**の保護施設では、いちど日本の空から姿を消したトキが、保護と繁殖の努力によって再び野生に羽ばたくまでの歩みを学べる。たらいに乗って入り江を巡る名物**たらい舟**や、古い船大工の町並みが残る宿根木（しゅくねぎ）も人気が高い。

冬の新潟を代表するのが、雪と山のリゾートである。**越後湯沢・苗場・妙高・かぐら**など、全国でも屈指のスキー場が集まり、上越新幹線や関越自動車



道を使えば、首都圏から日帰りでも楽しめる。川端康成の名作『雪国』の舞台となったのも湯沢である。上越（高田）は、スキーが日本に伝えられた地の一つとしても知られる。

そのほかにも、鏡のように景色を映すトンネルで話題を呼んだ**清津峡（きよつきょう）**、雲海と棚田の絶景で知られる**星峠の棚田**、県民の総鎮守として親しまれる**弥彦神社**と弥彦山、奇岩の続く海岸美の**笹川流れ**、ヒスイの産地でありジオパークにも認定された**糸魚川**など、見どころは尽きない。温泉も豊富で、美人の湯として名高い**月岡温泉**、日本三大薬湯に数えられる**松之山温泉**、海辺の**瀬波温泉**などが各地に湧く。都市部でも、新潟市の水族館マリニア日本海や古町・万代の食と酒、長岡の花火と歴史、上越の高田城址の桜と蓮など、四季を通じて楽しめる。

6. 食文化 — 米と海と発酵の恵み

米どころであり、海の幸に恵まれ、雪国ならではの保存の知恵をもつ新潟県には、個性ゆたかな郷土料理や名物が数多くある。主食となる**コシヒカリ**のごはんはもちろんのこと、布海苔（ふのり）をつなぎに使った独特ののどごしの**へぎそば**（十日町・小千谷）、よもぎ団子を笹の葉で包んだ**笹団子**、里芋などを煮含めた祝いの料理の**っぺ**などは、家庭や祭りの席に欠かせない。

そのほか、甘辛いタレをくぐらせた薄いカツをごはんのにのせる**タレカツ丼**、あぶらあげとは思えないほど分厚い**栃尾（とちお）の油揚げ**、焼きそばにミートソースをかけた新潟市民のソウルフード「イタリアン」、祭りの屋台でおなじみの蒸し菓子**ぼっぼ焼き**、村上に伝わる保存食**塩引き鮭**など、庶民的で親しみやすい味が根づいている。日本海の**南蛮えび**やのどぐろといった魚介の味わいも格別である。米・酒・魚、そして雪とともに育まれた発酵と保存の文化が、新潟の食を豊かにしている。

笹団子

郷土の味（一部） コシヒカリ／へぎそば／笹団子／のっぺ／タレカツ丼／栃尾の油揚げ／イタリアン／ぼっぼ焼き／塩引き鮭／南蛮えび／おけさ柿／ル レクチエ（西洋なし）

7. 祭り・自然・くらし

新潟県の夏の夜空を彩るのが、日本三大花火の一つに数えられる**長岡まつり大花火大会**である。正三尺玉や、復興と鎮魂の願いをこめた大型花火「**フェニックス**」は、多くの人の心を打つ。小千谷市の**片貝まつり**では、世界最大級とされる四尺玉が打ち上げられる。冬には、

新潟県まるわかり資料 | AI実習ナビ 学習用サンプル

雪の像や雪上のカーニバルでにぎわう**十日町雪まつり**、闘牛の伝統を今に伝える山古志の**牛の角突き**など、四季それぞれに個性的な行事が各地で開かれる。

自然の面でも、新潟県は多くの宝をもつ。佐渡で野生復帰を進める**トキ**、山古志を発祥とし「泳ぐ宝石」と称されて世界に輸出される**錦鯉（にしきごい）**、瓢湖に舞い降りる**白鳥**、春の畑を彩る**チューリップ**など、季節ごとに表情を変える。雪と共生してきた暮らしは、雪下ろしや雁木（がんぎ）の町並み、雪室貯蔵といった独自の知恵と文化を生んだ。



暮らしを支える交通網も整っている。東京と新潟を結ぶ**上越新幹線**、上越妙高に停まる**北陸新幹線**、関越・北陸・磐越の各自動車道、そして新潟空港や佐渡汽船が、県内外を結んでいる。首都圏からは日帰りから一泊程度で訪れることができ、ビジネスにも観光にも便利である。

都市	人口の目安	特色
新潟市	約78万（政令市）	県都・港・食と酒
長岡市	約26万	花火・歴史・ものづくり
上越市	約18万	上杉謙信・高田城址
三条市・燕市	各約8～9万	金属・刃物・洋食器

8. ことば・県民性・出身の人々

南北に長い新潟県は、ことば（方言）にも地域による違いが大きい。下越・中越・上越では語彙やアクセントが異なり、日本海に浮かぶ佐渡には、都の言葉の名残をとどめた独特の言い回しが残るともいわれる。同じ県内でも「隣の地域の言葉は少し違う」と感じることもあるのは、細長い地形と、山や川で隔てられた歴史のなごりである。

県民性としては、雪深い土地で培われた辛抱強さや勤勉さ、そして人情の厚さがよく語られる。長く厳しい冬を越すために、蓄えを大切にし、地道に働き、助け合う。そうした暮らしのなかで育まれた気質は、米づくりやものづくりの粘り強さにも通じている。「米百俵」の逸話に象徴されるように、目先の利益よりも将来への備え、とりわけ教育を重んじる姿勢も、この地の伝統として受け継がれている。

スポーツの分野では、サッカーJリーグの**アルビレックス新潟**が県民に広く親しまれ、ホームの試合には多くのサポーターが詰めかける。雪国ならではの環境で育った選手も多く、スキーやスケート、野球、陸上など、さまざまな競技で活躍する人々を送り出してきた。

出身の人々も実に多彩である。政治では総理大臣をつとめた田中角栄、軍人では連合艦隊司令長官の山本五十六、文化の面では、江戸後期の禅僧で歌人・書家でもあった良寛、歌人・美術史家の會津八一、『墮落論』などで知られる作家の坂口安吾（新潟市出身）など、各分野に足跡を残した人物を数多く輩出している。こうした人材の豊かさもまた、教育を大切にしてきたこの県の一面を物語っている。

9. まとめと雑学

ここまで見てきたように、新潟県は「米・酒・雪・海・歴史」という要素が幾重にも重なり合った、多彩で奥行きのある県である。三行でまとめるなら、①豪雪と信濃川が育てた越後平野を舞台とする、日本有数の米・酒どころであること、②燕三条のものづくりや米菓・化学などの多層的な産業をもつこと、③佐渡金山（世界遺産）・スキー・花火・トキなど、自然と歴史の観光資源が豊かであること、の三点に集約できる。

3行まとめ ①豪雪と信濃川が育てた米・酒どころ。②燕三条をはじめとする多層的なものづくり。③佐渡金山・スキー・花火・トキなど自然と歴史の観光資源が豊富。

雑学コラム

- ・「敵に塩を送る」は、上杉謙信の逸話が由来とされることわざである。
- ・信濃川は「信濃」の名を持つが、実は流域の多くは新潟県内を流れている。
- ・「米百俵」は、財政難のなかでも教育を優先した長岡の逸話で、今も教育の大切さの象徴として引用される。
- ・おつまみの定番「柿の種」は、長岡の浪花屋製菓が発祥とされる。
- ・錦鯉は、山古志の棚田のため池文化のなかから生まれ、いまや世界へ輸出される日本の誇りとなっている。
- ・川端康成『雪国』の「国境の長いトンネル」は、上越線の清水トンネルを指すといわれる。

この資料の使い方（学びのヒント） 本資料はあえて情報を詰め込んでいます。ぜんぶを読むのは大変なので、AIに読み取らせて「要点だけ」「表で比較」「○字で要約」のように、目的に合った形式で整理してもらえると、必要な情報に速くたどり着けます。「産業だけ」「観光だけ」のように、関心のあるテーマに絞って質問するのも効果的です。